

## 配合飼料の一部を飼料用米に置換した場合 アミノ酸の調整により卵重の調整が可能

飼料原料を海外からの輸入に頼っている我が国の養鶏産業は、海外の飼料価格に強く影響されており、飼料用米の生産と利用が全国各地で推進されています。一方、鶏卵重量は日齢によって変動し、1年鶏では小玉が多く、2年鶏になると大玉が多くなります。しかし鶏卵はM玉を中心に取引されているため、M玉を多く生産できる技術が重要な課題になっています。

そこで、山梨県畜産酪農技術センターでは、配合飼料の一部を飼料用米に置換し、各種アミノ酸(メチオニン、リジン)を調整して卵重を調整できる技術を開発しましたので紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 採卵鶏用配合飼料と粳米を用いて1年鶏を飼育する場合、メチオニン量を0.42%（要求量の120%）とし、リジン含量を0.78%（要求量の120%）とすることで産卵率を落とさずに卵重を大きくすることができます。
2. 同様に2年鶏に給与する場合、メチオニン含量を0.42%とし、リジン含量を0.65%（要求量の100%）とすることで卵重を小さくすることが可能となります。
3. リジン含量は卵重操作に影響を及ぼし、卵重は負の2次回帰で示すことができます(図1)。



写真1 飼料用米



写真2 飼料用米給与状況

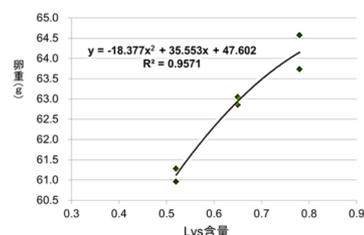


図1 リジン含量と卵重の関係

### ☆活用面での留意点

1. 配合飼料 60%、粳米 38%の配合としますが、粳米の量が多く飼料中の粗タンパク (CP) 含量が低下するので、CP 含量が14%以上になるようコーングルテンミールで調整してください。
2. リジン含量が0.52%（要求量の80%）以下の場合には、メチオニンを増量しても産卵率維持効果は認められません。
3. 粳米の給与によって卵黄色が低下するので、必要に応じてマリーゴールドやパプリカ抽出物等の色素を添加する必要があります。
4. 詳しくは、山梨県畜産酪農技術センター養鶏科（TEL055-273-6441）にお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男）